

名古屋市図書館第1ブロック施設整備方針（案）に対する 市民意見の内容および本市教育委員会の考え方について

名古屋市図書館第1ブロック施設整備方針（案）に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただいたご意見とそれに対する本市教育委員会の考え方をご紹介します。なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますので、ご了承ください。

1 方針全体・図書館に関すること

- 図書館の規模を縮小する構想・方針は理解できない。
- 「なごやアクティブ・ライブラリー構想」について、もっと広報してほしい。
（HP、新聞、テレビ、SNS等）図書館の利用も増えるのではないか。
- 床面積が減ると、区によって文化・サービスの格差ができてしまう。
- 住まいの近隣で、無料で誰もが利用できる公共施設は減らさずに増やすべき。
図書館はあって当然の施設、1区1館の充実を図ってほしい。
- 駅近くではない名東図書館の貸出力こそ地域の知識の力である。
- 構想の進展が遅すぎる。見直しの必要もあるのではないか。
方針について具体的な提案がないため判断しかねる。
- 市民意見、利用者意見を聞き取るなどして、市民と共に策定してほしい。
様々な市民（特に今の利用者）の声を大事にしてほしい。
- アンケートやワークショップ、市民説明会は多くの市民参加を求めている。
乳幼児～学生、子育て世代の意見が反映されていないのではないか。
- 図書館を利用しない人と意見交換できるよう考えてほしい。
- 図書館法に則った、図書館の基本的な役割をおさえてほしい。
- ネットは便利だが情報量が多く、必要な情報にたどり着けないなど課題も多い。
- 書籍が欲しい人は図書館を利用せず、買って読む。
- 図書館は本の受渡窓口ではなく、生涯学習を助ける地域の情報センターである。
生涯学習の視点で、本以外の情報提供の場として、図書館の多様な在り方が検討されていると感じる。
- 人口やサービスに対してALの規模が小さすぎないか。
- 子供の読解力、論理的思考、知的好奇心を育てるためにも図書館は必要。
将来を担う子どもの教育環境としての図書館のあり方、必要性を議論してほしい。
中高生の家庭外・学校後の居場所となる図書館は大切。
- 子どもの読書推進のための役割を果たせないように感じる。
- 誰にとっても利用しやすく、職員の待遇もよい図書館であって欲しい。
社会福祉の観点からもホームレスを排除するようなことはしないでほしい。
- 図書館の利用が減少している原因の究明、分析を行うべき。
- 司書の専門性と知性のおかげでボランティア活動を続けることができている。
- 家から遠い図書館は利用できない。
ボランティア活動ができるのは活動しやすい立地や本が近くにあるためである。
- 新しい本が少なく、予約待ちにより、図書館の棚には古い本ばかりで魅力がない。
- 絵本を取りやすく、親しみのある空間作りこそ求められている。
- 電子書籍だけでなく、手に取って本を見ることの出会いを大事に考えてほしい。
利用されていない本も閲覧しやすい場所であれば活用できるのではないか。
- 古い本を処分せず、他の公共施設への配分するなど、再利用を考えてほしい。
- 司書の人数を減らし、書籍の購入費を減らすなど、図書館運営に関わる予算を削減してきたことが問題である。
- 知識や文化を大切にしてお人を育てることは市にとっても大切なことだと思う。
予算削減だけでなく、市民生活の利益となることを目指してほしい。
- 利用を増やすために、図書館見学ツアーを多く実施してほしい。
- 本を地元書店から購入して、書店の活性化につなげてほしい。

【考え方】

- 本市図書館を月1回以上利用する市民は約2割、年間1点以上の本などを借りた市民は約1割にとどまっており、第1ブロックを対象とした市民アンケートでも約8割の方が「一回も利用しない」もしくは「年に数回程度の利用」と回答しました。
- 図書館を取り巻く社会情勢や市民ニーズをふまえて、時代に合った市民サービスを展開するとともに、限られた予算の中で効果的・効率的な図書館運営を行っていく必要があると考えております。
- 平成29年度に策定した「なごやアクティブ・ライブラリー構想」は人口減少社会、少子高齢化の進展による人口構造の変化などに伴う社会ニーズの変化に対応した施設の再配置や、施設運営の効率化などを取りまとめたものです。
- 今回策定した「第1ブロック施設整備方針」については、市民アンケートやワークショップ、有識者懇談会、市民説明会などを通じて、様々なご意見をいただきながら、検討を進めてまいりました。
- 本市における施設整備の全体的な方針である、「市設建築物再編整備の方針」にも即しており、「全体の保有資産量の削減を図りつつ、施設の効率的な再編（集約化・複合化）を行うとともに、運営面などを工夫することにより市民サービスの維持向上をめざして、施設の再編整備を進める」こととしております。
- 今後は、区や施設単体ではなく、ブロックという面でのネットワークサービスを目指しており、地域サービス館ごとに必要な機能を検討し、整備することに加え、貸出返却ポイント、協働運営ポイント・自動車図書館などの館外サービスも展開し、市民にとって身近な場所で図書館の本を利用できるようにしていきたいと考えております。
- 便利な場所での貸出返却サービスやニーズに応じた出張サービス、専門的サービスの向上や、居心地の良い空間づくりなど、誰もが気軽に利用しやすい環境を整えることで、より多くの市民に利用していただける図書館を目指してまいります。
- 構想や方針を、より多くの市民の皆様にご覧いただけるよう、分かりやすい広報に努めるとともに、今後とも市民に親しまれる地域の情報・交流・生涯学習の拠点となるよう取り組んでまいります。

2 サービス網の再構築・今後のサービスに関すること

- 新たなニーズを求める構想は理解できる。
駅に近いスマートライブラリーも面白いと思う。
- アクティブライブラリーへの専門性の集約化により、区の専門性がなくなるため、よく図書館を利用する人には意味がない。
- 新しい図書館は、今後図書館を使う人のために、早急に、安全で快適な図書館をつくってほしい。
- 本屋ではないのだから、利便性だけを追求する必要はない。
地域（特に子どもたち）が気軽に立ち寄り、司書に新しい図書を紹介してもらおうといったゆとりある使い方がしたい。
- 地域サービス館の組み合わせだけで終わらせてほしくない。
- 利用者が減少しているのは移動手段がないからである。図書館を利用したくても利用できない人のことを考えてほしい。
- 図書を通じた人とのつながりが大切なので、そういった場を作ってほしい。
- 地域に合ったきめ細やかなサービスを希望するが、ブロック運用で幅広いニーズを拾えるのか心配。
- 図書館の蔵書について、貸出冊数だけで判断するのはいかなものか。
- 現在分館にある地域資料はアクティブライブラリーで所蔵（貸出）してほしい。
- 専門的な情報を扱う本や絶版本は図書館にしかなく、正確な情報を得る上でとても助かっている。本の価格が高くなったため、図書館では本の種類を充実させてほしい。ニーズがあまりなくても高価な本を揃えてほしい。
- 蔵書を貸出数だけで判断せず、保存機能も大切にしてほしい。
- スマートライブラリーは、従来の分館にくらべ、蔵書・面積で差がありすぎる。
図書館は公共施設であるのに、不公平感を感じる。住む場所で地域格差が生じる。
- 電子書籍を充実させることで利用していない人へのサービスは足りるので、スマートライブラリーは不要。
- 集会室等のスペースが十分でない、コミュニティ・スマートライブラリーでは、おはなし会などの児童サービスや、企画イベントが実施できないのではないか。
- おはなし会等の各種イベント、ボランティアの活動の場である集会室について、市民の学習する機会を提供するためにも、スマートライブラリーに残してほしい。
- 複合施設内の共有スペース活用は、他者との競合、有料化などの不安がある。
- カフェなど流行のものは図書館にはいらぬ。
- 幼い子を連れて駅には行かない。
- 身近な図書館でもレファレンスサービスを受けることができないと困る。
レファレンスには時間がかかるため、窓口を減らさないでほしい。
- 現在の各図書館のサービスがあった上での利便性向上を希望する。
- 図書館を身近に、いつでも気軽に勉強できる場所をもっとしてほしい。
- 貸出返却できるポイントが増えることは良い。
- コンビニ・郵送貸出などの手法により、市内各地での貸出・返却を可能にしてほしい。
- 共働きの時代なので、駅前への返却ポスト設置は利便性が高まるサービスでよい。
駅構内にも返却ポストを設置できないか。
- 学校での貸出・返却ができると親・子どもにとっても利用しやすくなるので良い。
- 協働運営ポイントは、ざわつき、落ち着かないイメージがある。
- 駅周辺の団地や集合住宅の空き室利用は考えられないか。
- コミセンや生涯学習センターで図書館の本が利用できたら利便性が高い。

- 月に一度程度、午前中にしか来ない自動車図書館では、子どもたちは利用できない。恒常的な機能とすべき。
- 新しい本だけでなく、過去の資料も、電子書籍化して貸出可能にしてほしい。
- 電子書籍に洋書（絵本）、オーディオブックを増やしてほしい。
- 電子書籍について、探しづらかったり、電子化には適さない書籍があったりする
ので、今後検討してほしい。
- 電子書籍ではなく、紙の本が見たいというニーズにも応えてほしい。
- 名東図書館の縮小を嫌だと感じていたが、自動車図書館や学校連携などはとてもいい
取り組みだと思う。
- 将来利用者層である、子ども若者へのサービスの視点が欠けている。
- どの地域の子どもたちも公平なサービスを受けられるようにしてほしい。
- 教育現場と連携し、学校図書館の充実など、子どもが本に触れる機会を増やしてほしい。
学校の図書室に司書を置いてほしい。
- 地域の実情に応じて学校図書室の活用を検討してみてもどうか。
- 公立の図書館に限らず、民間でも子ども文庫等の活動をしている。
- ボランティアグループの育成に力を入れてほしい。
- ボランティア育成について、司書はとても忙しそうなので、各館へ出向くことができ
るかは疑問である。
- サービス向上はありがたいが、職員の労働環境にも配慮が必要。
職員・利用者にとって優しい図書館であってほしい。
- ブックトーク等のサービスは認知されていないため、アウトリーチに積極的に取
り組んでほしい。
- 岐阜のメディアコスモスを参考にして、市民に何が必要なのかを考えてほしい。
- 学校連携窓口はブロック内全校が対象となる。司書配置にあたって考慮してほしい。
- 司書の専門性を担保するため、直接採用の専門職を増やすべき。
- 地域の文化の拠点となるために、司書の育成面を充実させてほしい。
司書の育成が図書館の力である。市民と共に取り組んでほしい。
- 人の育成を考えるのであれば、効率化の視点は不要。
- 鶴舞だけでなく、アクティブライブラリーでも教科書展示をしてほしい。
- 子どもが読書量を実感できる、読書通帳の仕組みなどがあるとよい。
- 休館日である月曜日にも図書館サービスが受けられるとよい。

【考え方】

- 「本屋ではないのだから、利便性だけを追求する必要はない。」など、貸本屋のような印象を受けられた市民の方もいらしたため、名古屋市図書館として目指すべき方向性に、司書の役割を追記しました。(P5)
- 「身近な図書館でもレファレンスサービスを受けることができないと困る。」というご意見をいただきましたが、いずれの館でもレファレンスを受けることは可能です。レファレンスサービスがCL、SLで無くなるとの誤解を解消するため、レファレンスサービスについての表現を修正しました。(P9)
- スマートライブラリーが小さいのではないかと不安を感じる意見をいただきましたが、スマートライブラリーは、他の公共施設等との合築により、共用スペースを活用して必要なスペースを確保することを考えています。その内容を分かりやすく表現するため表現を修正し、施設内にて必要なスペースを確保する方針である旨を記載しました。(P11、P13、P16)
- コミュニティライブラリー、スマートライブラリーでは、複合先の共用スペースを活用するなど、読み聞かせを行う場所や学習室・集会室のような機能について、様々な形で実現できるよう工夫してまいります。
- スマートライブラリーでは蔵書数が減ることを心配される意見をいただいたため、蔵書は選りすぐりの本ばかりとなり、むしろ、本が探しやすくなるというメリットについて追記するとともに、参考事例の表現を修正しました。加えて、各図書館に配架する蔵書数とは別に、電子書籍を充実させていく方針である旨を追記しました。(P11、P12、13)
- アクティブライブラリーは、市民が集い、ともに学び合い、様々な活動を行う場所を持つ図書館です。質の高い情報の収集と発信を行うとともに、ブロック内の統括館として、市民ボランティアの育成や、各ライブラリーに対する助言・支援を行い、これまで以上に地域に寄り添ったサービスを行います。
- アクティブライブラリーに新たに学校連携窓口を設置し、学校図書館の活動を支援するとともに、コミュニティライブラリー、スマートライブラリーでも、学校と連携した活動を行い、子どもが本に触れる機会を増やしてまいります。学校連携窓口がALに設置されることを明示するため、表現を修正しました。(P9)
- 駅周辺などの交通の便の良い場所に整備するスマートライブラリーでは、地域特性やニーズに合わせた選りすぐりの本や資料を、探しやすく、手に取ってみたいくなるように展示し、ニーズの変化に即応できるよう努めてまいります。
- ボランティア活動の場を設定するだけでなく、司書が、実際に活動に参加し、助言や支援を行うことで、より充実した活動となるよう取り組んでまいります。
- 自動車図書館は、機動性が高い小型車両を導入し、台数を増やすことにより、ニーズに応じて、きめ細かく様々な場所に本を届けることに加えて、各種イベントへの出張など、図書館のPRも行ってまいります。
- 時間や場所の制約を受けずに利用できる電子書籍のサービスをはじめ、図書館の本をより多くの方に利用していただけるよう、取り組んでまいります。
- 方針策定後も市民ニーズや社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行ってまいります。

3 管理運営に関すること

- 民間活力を活用する館にも司書は必要。
- 民間ではなく専門職の司書によるサービスを希望する。
- 直営館1館だけでブロック全域の地域情報を集めることができるか不安。
人口56万以上のニーズ把握と対応には相当な司書数が必要である。
- 指定管理には反対。公共性の高い図書館について、民間委託すべきではない。
より良い図書館運営や市民の成長のために専門職の司書が必要。
- レファレンスサービスを利用するにあたり、司書がいて大変助かっている。
継続的に採用してほしい。

【考え方】

- 図書館における指定管理者制度実施につきましては、人口減少等社会の変化や多様化するニーズの中、市民サービスの向上に向けて、より効率的・効果的な運営体制の構築を目指しているものです。指定管理者制度に移行した図書館においても、これまで同様、司書が配置されます。
- 構想では、アクティブライブラリーに市職員である司書を集約化し、コミュニティライブラリー、スマートライブラリーの司書と連携協力しながら、専門的サービスの向上や学校・関係機関との連携強化を図ることとしております。
- 鶴舞中央図書館を中心に研究・研修体制を構築し、地域における図書館サービスが高い水準で保たれるよう、司書としての専門性を高めてまいります。
- 選書や蔵書の構成、郷土資料の収集・保存、図書館資料を駆使して応える専門的なレファレンス、学校・関係機関との連携調整などは、引き続き市職員である司書が責任を持って取り組んでまいります。
- 直営と民間活力を組み合わせることで効率化を図りながら、アクティブライブラリーがコミュニティライブラリー、スマートライブラリーと密に連携することにより、事業の継続性や安定性を確保してまいります。

4 施設整備に関すること

- 具体的な図書館の整備方針（時期・場所）を出してほしい。
- 各館の地域サービス館としての整備方針が分かりにくい。
- 1区に1つ図書館が最低限必要である。
- 子どもの居場所をつくってほしい。福祉分野とも連携した図書館づくりをしてほしい。
- 公共施設利用は幼いころからの親しみが基本である。
親子で利用が楽しくできる施設であってほしい。
- 親子での利用を想定する場合は、交通機関近くより、駐車場や駐輪場を整備できる場所に図書館をつくるべき。
- 図書館が便利な場所にあるとよい。
短時間でも立ち寄り、いつでも使える図書館を希望する。
- スマートライブラリーは日常的に駅を利用する人にとっては便利だと思う。
- 駅近が必ずしもいいとは限らない。地域ごとに重視するものは異なる。
現状を維持した上で、駅近のスマートライブラリーを整備すればよい。
- 子供連れ、高齢者、小学生が通いやすいコミュニティライブラリー整備を希望する。
- 駅の近くにポイント、車で行ける範囲にコミュニティライブラリーがあるのが理想。
- 老朽化した館の建て替えを楽しみにしている。1日でも早く取り組んでほしい。
- 具体的な動きとなった際には広く市民の声を聞く場を求める。
施設内容を市民が議論する場を作ってほしい。
- 施設の計画段階から、アクセスが困難な人達の意見を聞いて進めてほしい。
- 複合化した場合は、共有スペースを有効活用し、図書館内に多くの本を置いてほしい。
- 複合施設内での共有スペースを活用する場合、うるさくならないよう配慮してほしい。
- 静かな環境で、ゆったりと本を選んだり読んだりできる環境こそ求められている。
- 図書館の老朽化だけが理由であれば、現在の規模での建て替えでよい。
各図書館に自習室、おはなし会などのできる集会所の設置を希望する。
- 人口も多く、子育て世代も多い地区に、鶴舞中央図書館規模の図書館が必要。
- 星ヶ丘アクティブライブラリーは、確かに利便性が高い。
- ブロックの要である星ヶ丘アクティブライブラリーは実現可能なのか。
具体化しないのは課題が多いため、具体化しないのではないか。
- 千種図書館は速やかに建替えてほしい。
- 星ヶ丘アクティブライブラリーは守山区、東区の利便性向上にはつながらないのではないか。
- 千種区役所等複合庁舎内にスマートライブラリーが整備されると非常に便利。
日曜日も開館してほしい。
- 現在の名東図書館の立地は不便である。
- 人口が多い名東区内にスマートライブラリーしかなく、コミュニティライブラリーがないのが納得できない。
- 名東図書館のスマートライブラリー化に反対。
 - ・入館者数も貸出点数も多く、移転や縮小はあってはならない。
 - ・ゆったりと本を読む場所が求められており、現在のサービスを維持してほしい。
 - ・来館手段、利用率、地域性を考え、コミュニティライブラリーにしてほしい。
 - ・子ども、高齢者は遠くまで行けず、現利用者にとってサービス低下となる。
 - ・バス利用者を考慮し、住んでいる近くでの立地、資料等を減らさないでほしい。
 - ・多くの市民利用のために、名東図書館が縮小するのは納得ができない。

- 名東区は通勤族の街として全国から注目を集めているのにも関わらず、小規模の図書館ではあまりにも恥ずかしい。
- 地域住民にとって、身近な現在の図書館がなくなるのは辛い。
図書館ボランティアの中には近くに図書館があるから活動している人も多い。
- 子どもが自転車で気軽に通える距離に図書館があることが文化的に必要。
- 幼い子を連れて駅には行かないため、必ずしも利便性向上になるとはいえない。
- 名東図書館の児童コーナーはとても良いので無くさないでほしい。
- 守山区にはきちんとした複合施設整備をお願いしたい。
- 余裕があれば、グループ学習ができるフリースペースを各館に作ってほしい。
- 駐車場はもっと広くして、駐車料金も抑えてほしい。

【考え方】

- 地下鉄や市バスが集まり、大学やにぎわいのある商業施設もある星ヶ丘にアクティブライブラリーを整備するとともに、ブロック全体の図書館の配置バランスを考慮し、コミュニティライブラリー、スマートライブラリーの配置を決定しております。
- 各ライブラリーの具体的な整備時期について、現時点では決まっておりますが、老朽化した図書館の改築時やリニューアル改修時等に合わせて整備できるよう、取り組んでまいります。
- 構想では、区や施設単体ではなく、ブロックという面でのネットワークサービスの充実を目指しております。地域サービス館ごとに必要な機能を検討し、整備することに加えて、貸出返却ポイント、協働運営ポイント・自動車図書館などの館外サービスも展開し、市民にとって身近な場所で図書館の本を利用できるようにしていきたいと考えております。
- コミュニティライブラリー、スマートライブラリーでは、複合先の共用スペースを活用するなど、読み聞かせを行う場所や、集会室のような機能についても、様々な形で実現できるよう工夫してまいります。
- スマートライブラリーは、駅周辺など便利な場所で、ニーズの変化に即応できる図書館として、選りすぐりの資料を提供しますので、子どもたちや子育て世代の利用者の方にもご利用いただきたいと考えております。
- 学校連携窓口による各学校の学校図書館との連携、学校等身近な場所での本の貸出・返却、地域と協力して運営するここにもライブラリー、自動車図書館のきめ細やかな巡回などにより、子どもたちの読書環境につきましても、これまで以上に充実させてまいります。
- 方針策定後も市民ニーズや社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行ってまいります。
- 地域からの意見聴取に努めることについて、ご要望をいただいたため、地域からの意見聴取について追記いたしました。今後、具体的な施設整備を進めていく場面においては、引き続き、皆様からの意見聴取に努めてまいります。(P17)